

2月7日

2020年
(令和2年)

金曜日
第19499号(日刊)
土、日曜・祝日は休刊

鉄鋼新聞

Japan Metal Daily

桂スチール 新ビルトH工場、4月本稼働

生産効率化、物流・在庫機能拡充

ビルトH形鋼(BH)加工の国内最大手、桂スチール(本社・兵庫県姫路市、社長・三木桂吾氏)は、新BH工場「友延工場」を4月から本稼働する予定だ。投資額は約17億円で、社員の働き方改革に伴う生産効率化、さらに物流・在庫機能の拡充

などを目指していく。

新工場の敷地面積は約5万平方メートルで、昨年9月に着工した。BH生産拠点および在庫・物流拠点として活用していく。導入する設備はBH溶接ライン2ラインのほか、プラズマ溶断機やガスプレーナーなど。既存工場と連携しながら生産効率を高めるとともに、納期対応力・在庫保管能力を高める。また、在庫ヤードには門型クレーンを6基設けており、ヤードの一部は他社に

貸し出す予定。

同社は生産拠点として岡山県中心に計6工場があり、足元の月産量は5千〜6千ト。母材厚板の溶断からBHの一次・二次加工まで

自社で一貫して手掛けるのが強みの一つ。著名物件で同社製BHが採用されることも多く、最近では新国立競技場で同社のBHが使われている。

同社は2016年に姫路工場、17年には岡山第2工場に新工場棟を建設するなど、生産体制の強化を進めており、合理化・省力化に対しても積極的な設備投資を続け、競争力の強化を図っている。今後の設備投資について三木社長は「ひとまず大型投資は完了した」とし、老朽化更新を中心に投資を考えていく方針だ。